

MGC

2022年度 第1四半期  
**決算説明会**

 三菱ガス化学株式会社

2022年8月5日

証券コード  
4182



1 | 2022年度 第1四半期 決算概要

2 | セグメント別業績概要

3 | 業績予想

はじめに「2022年度第1四半期決算概要」、続いて「セグメント別業績概要」、最後に「業績予想」という順でご説明いたします。

1 | 2022年度 第1四半期 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 業績予想

## 2022年度 第1四半期 業績サマリー



－ 原燃料価格や輸送費の上昇があったものの、円安効果などにより増収増益。営業利益・経常利益は過去最高益に

単位:億円	2021年度 1Q	2022年度 1Q	増 減	
			金額	%
売上高	1,600	1,939	339	21.2%
営業利益	146	188	42	28.9%
(持分法利益)	(30)	(22)	(▲7)	-
経常利益	185	248	63	34.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	143	161	17	12.3%
一株当たり四半期純利益(円/株)	69.00	77.73		
為替レート(JPY/USD)	110	130		

(注) 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

はじめに、4ページをご覧ください。

2022年度第1四半期業績のサマリーを示しております。

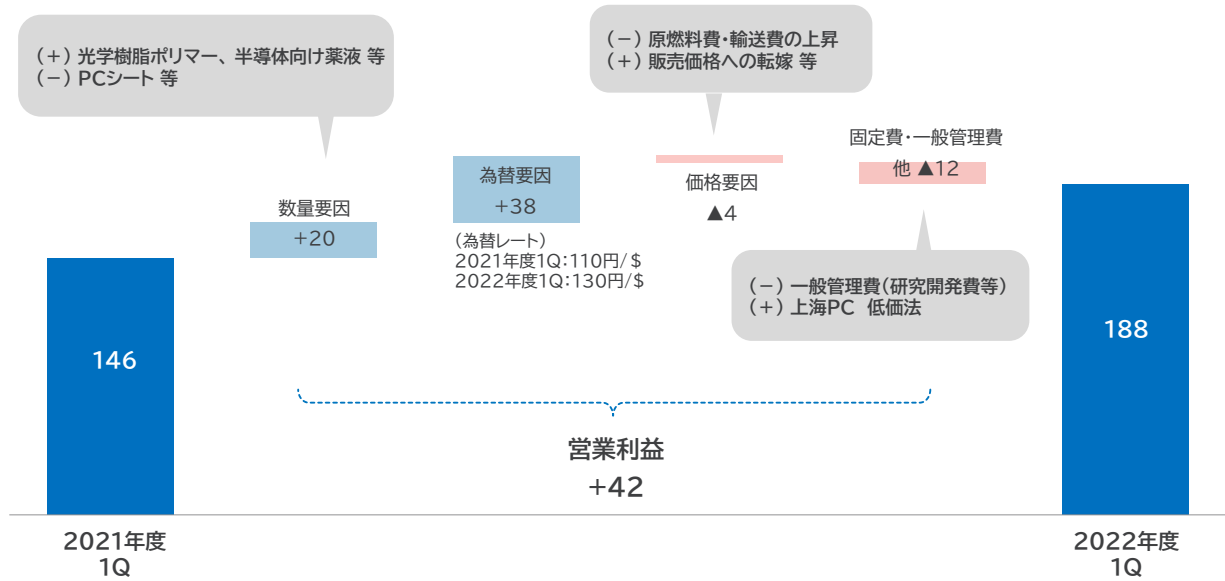
原燃料価格や輸送費の上昇があったものの、円安効果などのプラス要因が上回り、増収増益となりました。

売上高は、対前年同期で21.2%増収の1,939億円、  
営業利益は、28.9%増益の188億円、  
経常利益は、34.5%増益の248億円となりました。

営業利益および経常利益については、四半期として過去最高益を更新いたしました。

## 2022年度 第1四半期 営業利益 増減要因(前年比)

単位: 億円



5ページは2022年度第1四半期の営業利益の増減要因を、前年同期との比較で示しております。

数量要因は、光学樹脂ポリマーの販売数量回復や、半導体向け薬液が伸長したことなどから、20億円のプラスとなりました。

為替要因は、ドルおよびその他通貨が円安に振れたことから、38億円のプラスとなりました。

価格要因は、原燃料費や輸送費の上昇があったものの、販売価格への転嫁を進めたことや、ポリアセタールの販売が好調であったことなどから、4億円のマイナスに収まりました。

固定費・一般管理費等は、研究開発費などの一般管理費が増加したことなどから、12億円のマイナスとなりました。

1 | 2021年度 第2四半期 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 業績予想

続いて、セグメント別業績概要をご説明します。

## セグメント別 売上高・営業利益・経常利益



単位:億円	2021年度1Q	2022年度1Q	増減
<b>売上高</b>	1,600	1,939	339
基礎化学品	945	1,171	225
機能化学品	667	788	121
全社/調整	▲12	▲20	▲7
<b>営業利益</b>	146	188	42
基礎化学品	81	76	▲4
機能化学品	74	120	46
全社/調整	▲9	▲9	0
<b>経常利益</b>	185	248	63
基礎化学品	94	84	▲10
機能化学品	96	145	48
全社/調整	▲5	19	25

## 【参考】主要製品群(旧セグメント別)

単位:億円	2021年度1Q	2022年度1Q	増減
<b>売上高</b>	1,600	1,939	339
天然ガス系化学品	471	616	144
芳香族化学品	482	565	83
機能化学品	491	596	104
特殊機能材	176	192	16
全社/調整	▲21	▲31	▲10
<b>営業利益</b>	146	188	42
天然ガス系化学品	25	38	12
芳香族化学品	55	38	▲17
機能化学品	30	75	45
特殊機能材	44	45	1
全社/調整	▲9	▲9	0
<b>経常利益</b>	185	248	63
天然ガス系化学品	37	39	2
芳香族化学品	56	44	▲12
機能化学品	49	90	41
特殊機能材	47	54	7
全社/調整	▲6	19	25

(注)便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

7ページは、セグメント別の売上高、営業利益、経常利益を示しております。詳細は次のページ以降でご説明しますが、左側のとおり、基礎化学品は増収減益、機能化学品は増収増益 となりました。

また、参考値になりますが、右側に主要製品群、旧セグメント別の損益も示しております。

芳香族化学品は減益となりましたが、天然ガス系化学品、機能化学品、特殊機能材は増益となりました。

## 2022年度1Q実績

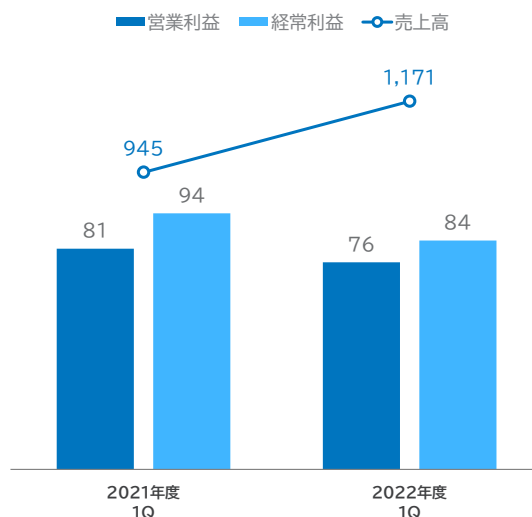
単位:億円

売上高:円安効果や、原燃料高の销售价格への転嫁、メタノール等の市況上昇により増収

営業利益:円安効果があったものの、原燃料費や輸送費の上昇などにより前年同期を下回る

持分法損益:メタノール市況上昇も、為替差損の影響で減益

- メタノール:市況は前年同期に比べ上昇(21年度1Q358ドル→22年度1Q401ドル)、増収。持分法損益は減益
- メタノール・アンモニア系化学品:原料価格が上昇したものの、堅調な需要を背景とした採算是正などにより、前年同期を上回る損益
- ハイパフォーマンスプロダクツ:芳香族アルデヒドの販売数量が増加したものの、原燃料価格や輸送費が上昇したことなどから減益
- キシレン分離/誘導品:原燃料価格の上昇などにより高純度イソフタル酸(PIA)の採算が悪化したことなどから減益
- 発泡プラスチック(JSP):フラットパネルディスプレイ保護材などの販売数量が増加したものの、原燃料高などにより減益



8ページ、基礎化学品事業についてご説明します。

売上高は、円安効果や、原燃料高の销售价格への転嫁、メタノール等の市況上昇により増収となりました。

営業利益は、円安効果があったものの、原燃料費や輸送費の上昇などにより前年同期を下回りました。

持分法損益は、メタノール市況が上昇したものの、為替差損を計上したことなどから、減益となりました。

続いて、主要事業別にご説明します。

メタノールは、市況が前年同期に比べ上昇し、増収となったものの、為替差損により持分法損益は減益となりました。

メタノール・アンモニア系化学品は、原料価格が上昇したものの、堅調な需要を背景とした採算是正などにより、前年同期を上回る損益となりました。

ハイパフォーマンスプロダクツは、芳香族アルデヒドの販売数量が増加したものの、原燃料価格や輸送費が上昇したことなどから、減益となりました。

キシレン分離/誘導品は、原燃料価格の上昇などにより高純度イソフタル酸(PIA)の採算が悪化したことなどから減益となりました。

発泡プラスチック(JSP)は、フラットパネルディスプレイ保護材などの販売数量が増加したものの、原燃料高などにより減益となりました。



## 2022年度1Q実績

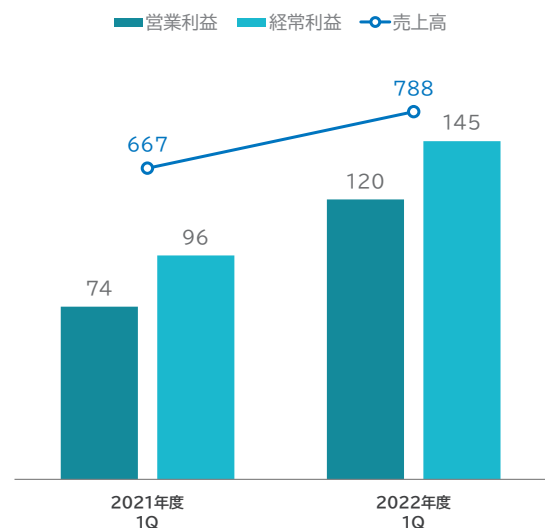
単位:億円

売上高:円安効果や、ポリアセタールの販売好調等により増収

営業利益:エンジニアリングプラスチックスの増益や、光学樹脂ポリマーの販売回復などにより増益

- 無機化学品:半導体向け薬液の販売数量が増加したものの、原燃料費や輸送費が上昇したことなどから、前年同期並みの損益
- エンジニアリングプラスチックス:ポリアセタールの販売が好調に推移したほか、ポリカーボネート中国拠点の損益改善などもあり、増収増益
- 光学材料:光学樹脂ポリマーの主用途であるスマートフォンの需要が下降したものの、顧客の在庫調整の影響で落ち込みのあった前年同期の水準からは回復したことなどから、増収増益
- 電子材料:主力の半導体パッケージ用BT材料において、PC関連機器や家電などで使用される汎用材料の需要が減少したものの、円安効果に加え、メモリーやノートパソコン用プロセッサ向けが好調であったことなどから、増収増益
- 脱酸素剤:海外向け販売が円安影響もあり食品分野を中心に堅調に推移したものの、原材料費や輸送費が上昇したことなどから、前年同期並みの損益

三菱ガス化学株式会社



©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 9

9ページ、機能化学品事業についてご説明します。

売上高は、円安効果や、ポリアセタールの販売好調などにより、増収となりました。

営業利益は、エンジニアリングプラスチックスの増益や、光学樹脂ポリマーの販売回復などにより増益となりました。

続いて、主要事業別にご説明します。

無機化学品は、半導体向け薬液の販売数量が増加したものの、原燃料費や輸送費が上昇したことなどから、前年同期並みの損益となりました。

エンジニアリングプラスチックスは、ポリアセタールの販売が好調に推移したほか、ポリカーボネート中国拠点の損益改善などもあり、大幅な増収増益となりました。

光学材料は、光学樹脂ポリマーの主用途であるスマートフォンの需要が下降したものの、顧客の在庫調整の影響で落ち込みのあった前年同期の水準からは回復したことなどから、増収増益となりました。

電子材料は、主力の半導体パッケージ用BT材料において、PC関連機器や家電などで使用される汎用材料の需要が減少したものの、円安効果に加え、メモリーやノートパソコン用プロセッサ向けが好調であったことなどから、増収増益となりました。

脱酸素剤は、海外向け販売が円安影響もあり食品分野を中心に堅調に推移しましたが、原材料費などが上昇し、前年同期並みの損益となりました。

1 | 2021年度 第1四半期 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 業績予想

最後に、業績予想についてご説明します。

単位:億円	2022年度上期			2022年度下期			2022年度通期		
	期初予想	今回予想	差異	期初予想	今回予想	差異	期初予想	今回予想	差異
売上高	3,900	4,000	100	4,100	4,100	0	8,000	8,100	100
営業利益	300	310	10	315	315	0	615	625	10
(持分法利益)	(84)	(87)	(2)	(121)	(102)	(▲18)	(206)	(190)	(▲15)
経常利益	390	410	20	425	425	0	815	835	20
親会社株主に帰属 する当期純利益	290	300	10	320	320	0	610	620	10

## 【2022年度上期】

期初予想比で、営業利益+10億円、経常利益+20億円

期初予想に比べ、光学樹脂ポリマーやBT材料の販売数量下振れや、原燃料高が見込まれるものの、円安効果や、ポリアセタールの販売好調などにより、売上高および各利益段階は前回予想を上回る見通し

## 【2022年度下期】

現時点で為替相場、原燃料価格も含め事業環境の見通しが不透明であることから、前回予想を据え置き(セグメント別の見直しは実施)

下期業績予想のポイントは13ページ参照

11ページをご覧ください。

2022年度上期については、

売上高は、期初予想比100億円上振れの4,000億円、

営業利益は、10億円上振れの310億円、

経常利益は、20億円上振れの410億円の予想です。

光学樹脂ポリマーやBT材料の販売数量下振れや、原燃料高が見込まれるものの、円安効果や、ポリアセタールの販売好調などにより上振れを見込みます。

下期については、

現時点で為替相場や原燃料価格も含め事業環境の見通しが不透明であることから、全体としては期初予想と同額を見込んでおりますが、事業別・セグメント別に前回予想から見直しを実施しております。

下期の業績予想のポイントについては、後ほど13ページでご説明いたします。

- 新潟工場、鹿島工場等の修繕費の増加(1Q比で約25億円)を見込む
- メタノール: 市況は380ドルを想定(1Q:401ドル)
- ハイパフォーマンスプロダクツ: 引き続き堅調な需要を見込む。原燃料価格上昇分の販売価格への転嫁は順次推進
- 無機化学品: 半導体向け薬液は1Qと同様に堅調な販売を見込む
- エンジニアリングプラスチック: ポリアセタールは引き続き需給タイトな状況が続く見通し。ポリカーボネート市況は1Qと同様に弱い前提
- 光学材料: 足元の需要は弱い状況。1Qの在庫先取りの反動もあり、1Q比で減収減益の見通し
- 電子材料: BT材料は、1Qに続き汎用材料が弱い見通し。最終需要減退の影響による顧客の在庫調整を見込み、1Q比減収減益を見込む

■為替前提(2Q): 1米ドル130円(1Qと同じ)、1ユーロ135円(1Q比3円の円高)  
(為替感応度(USD、概算): 1円の円高(円安)で、営業利益6億円/年、経常利益5億円/年の減益(増益))

■原油価格前提(2Q): 110ドル/bbl.(1Q比2ドルの上昇)  
(原油感応度(USD、概算): 1\$/bbl.の上昇(下落)で、1.5億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず)

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 12

12ページをご覧ください。

第2四半期の営業利益の見通しについて、第1四半期からの変化を中心に示しております。

第2四半期は、新潟工場、鹿島工場や海外子会社での修繕が重なるため、修繕費は第1四半期に比べ約25億円増加する見通しであり、第1四半期比での減益要因となっております。

メタノール市況は、380ドルを想定しており、第1四半期の401ドルからやや下落する見通しです。

ハイパフォーマンスプロダクツは、全体として引き続き堅調な需要を見込んでおります。原燃料価格上昇分の販売価格への転嫁も順次進めています。

無機化学品は、半導体向け薬液は第1四半期と同様に堅調な販売を見込んでおります。

エンジニアリングプラスチックは、ポリアセタールは引き続き需給タイトな状況が続く見通しです。ポリカーボネート市況は第1四半期と同様に弱含む見込みです。

光学材料は、光学樹脂ポリマーの足元の需要は弱く、第1四半期に在庫先取りがあった反動もあり、減収減益の見通しです。

電子材料は、BT材料は引き続き汎用材料が弱い見通しです。最終需要減退による顧客の在庫調整を見込み、減収減益の見通しです。

## 【基礎化学品】

- ・ メタノール：冬場の季節要因(暖房需要期)や、原油高継続を前提に、市況は420ドルを想定(期初予想と同じ)
- ・ ハイパフォーマンスプロダクツ：MXDA・芳香族アルデヒドとも、堅調な販売を維持する見通し
- ・ キシレン分離/誘導品：原燃料価格上昇による高純度イソフタル酸(PIA)の採算悪化を懸念
- ・ 例年同様、第4四半期に水島工場での定修を予定。今年度は2年に1度の大定修で費用大

## 【機能化学品】

- ・ 無機化学品：半導体向け薬液は引き続き堅調な需要を想定しつつ、各地域での顧客動向を注視
- ・ エンジニアリングプラスチック：ポリアセタールの販売好調、ポリカーボネートは全体市況は弱含みも、中国拠点の損益改善継続を想定
- ・ 光学材料：光学樹脂ポリマーは、スマートフォン需要全般の弱さを想定も、下期は新機種向けの搭載を見込む
- ・ 電子材料：BT材料も、川下の在庫調整継続を警戒。低そり材や高周波材は比較的堅調に推移すると想定

■為替前提:1米ドル130円(前回予想より5円の円安)、1ユーロ135円(前回予想より5円の円安)：前回予想比+15億円/下期

■原油価格前提:110ドル/BBL(前回予想より10ドルの上昇)：前回予想比▲7.5億円/下期

最後に13ページ、2022年度下期業績予想のポイントをご覧ください。

はじめに、基礎化学品ですが、

メタノールについては、冬場の季節要因や、原油高継続を前提に、市況は期初予想と同じ420ドルで想定しております。

ハイパフォーマンスプロダクツは、MXDA、芳香族アルデヒドともに、堅調な販売を維持する見通しです。

キシレン分離/誘導品は、原燃料価格上昇によるPIAの採算悪化が懸念点になります。

なお、例年同様、第4四半期に水島工場での定修を予定しております。今年度は2年に1度の大定修のため、費用が増加する見込みです。

続いて、機能化学品ですが、

無機化学品は、半導体向け薬液は引き続き堅調な需要を想定しておりますが、各地域での顧客動向を注視してまいります。

エンジニアリングプラスチックは、ポリアセタールの販売好調を見込みます。ポリカーボネートは全体市況は弱含むものの、中国拠点の損益改善の継続を想定しております。

光学樹脂ポリマーは、スマートフォン需要全般の弱さが見込まれるものの、新機種向けの搭載を見込んでおります。

BT材料は、川下の在庫調整継続を警戒しながらも、低反り材や高周波材は比較的堅調に推移するものと想定しております。

なお、為替前提は、1ドル130円、1ユーロ135円としており、いずれも前回予想から5円の円安見通しです。円安効果による営業利益の押し上げ影響は15億円程度と見込んでおります。

また、原油価格の前提は、前回予想より10ドル上昇の1バレル110円の見通しです。原油高による営業利益の押し下げ影響は、7.5億円程度と予想しております。

私からの説明は以上になります。

# Appendix

# セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2021年度実績			2022年度(前回予想)*			2022年度(今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
<b>売上高</b>	3,358	3,697	7,056	3,900	4,100	8,000	4,000	4,100	8,100
基礎化学品	2,009	2,244	4,253	2,233	2,365	4,598	2,349	2,396	4,745
機能化学品	1,375	1,479	2,855	1,697	1,763	3,460	1,689	1,740	3,429
全社/調整	▲26	▲25	▲52	▲30	▲28	▲59	▲38	▲37	▲75
<b>営業利益</b>	300	253	553	300	315	615	310	315	625
基礎化学品	158	98	257	116	90	206	131	87	219
機能化学品	159	176	336	202	242	444	196	244	441
全社/調整	▲18	▲21	▲40	▲18	▲17	▲35	▲17	▲17	▲35
<b>経常利益</b>	387	353	741	390	425	815	410	425	835
基礎化学品	191	109	300	171	158	330	170	165	336
機能化学品	207	246	454	232	287	520	241	280	521
全社/調整	▲11	▲2	▲13	▲14	▲21	▲35	▲1	▲21	▲23

## 2022年度 第1四半期 貸借対照表



単位:億円	2022年3月末	2022年6月末	増 減
<b>流動資産</b>	4,522	<b>4,808</b>	286
現預金	1,020	<b>1,079</b>	58
売掛債権	1,765	<b>1,821</b>	56
棚卸資産	1,556	<b>1,709</b>	152
その他	179	<b>197</b>	18
<b>固定資産</b>	4,764	<b>5,106</b>	341
有形固定資産	2,763	<b>2,918</b>	154
無形固定資産	112	<b>116</b>	3
投資その他の資産	1,887	<b>2,071</b>	183
<b>資産合計</b>	9,286	<b>9,914</b>	628

単位:億円	2022年3月末	2022年6月末	増 減
<b>負債</b>	2,977	<b>3,435</b>	457
買掛債務	923	<b>971</b>	48
有利子負債	1,176	<b>1,472</b>	295
その他	877	<b>991</b>	114
<b>純資産</b>	6,308	<b>6,479</b>	170
株主資本	5,472	<b>5,510</b>	38
その他包括利益累計額	215	<b>326</b>	110
非支配株主持分	621	<b>642</b>	21
<b>負債・純資産合計</b>	9,286	<b>9,914</b>	628
自己資本比率	61.2%	<b>58.9%</b>	



## 参考：各種指標 (1)

単位: 億円	2018	2019	2020	2021	2022(予)
設備投資額 [1Q]	392 [91]	423 [115]	402 [87]	547 [115]	<b>900</b> <b>[153]</b>
減価償却費 [1Q]	274 [67]	295 [71]	306 [75]	319 [78]	<b>340</b> <b>[79]</b>
研究開発費 [1Q]	186 [45]	196 [45]	199 [47]	210 [49]	<b>245</b> <b>[55]</b>
年度末人員(人)	8,276	8,954	8,998	9,888	<b>10,425</b>
一株当たり当期純利益 (円/株)	257	101	173	232	<b>302</b>
総資産経常利益率 (%)	8.7	3.9	6.2	8.4	<b>8.7</b>
自己資本当期利益率 (%)	11.3	4.3	7.1	8.8	<b>10.6</b>
投下資本利益率 (%)	10.9	4.9	7.7	10.4	<b>10.7</b>
一株当たり 配当金(円/株) [うち中間配当]	70.0 [35.0]	70.0 [35.0]	70.0 [35.0]	80.0※ [45.0※]	<b>80.0</b> <b>[40.0]</b>

※記念配当10円を含む

## 参考：各種指標（2）



	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期予想	下期予想
為替(JPY/USD)	110	112	109	109	107	105	110	115	130	130
為替(JPY/EUR)	130	127	121	120	121	126	131	130	137	135
原油価格(Dubai) (US\$/BBL)	73	65	64	56	37	52	69	87	109	110
メタノール (US\$/MT) アジアスポット平均価格	408	335	277	245	194	319	370	428	391	420
原料キシレン(US\$/MT)	845	730	705	640	420	560	780	875	1,250	1,150
ビスフェノールA (US\$/MT)*	1,600 ~1,900	1,200 ~1,800	1,000 ~1,450	1,050 ~1,350	900 ~1,450	1,400 ~3,300	2,750 ~3,700	2,100 ~3,150	1,400 ~2,200	1,300 ~2,000
ポリカーボネート (US\$/MT)*	2,700 ~3,800	2,100 ~2,800	1,900 ~2,250	1,650 ~2,000	1,500 ~2,150	2,100 ~4,000	3,100 ~4,050	2,650 ~3,650	1,800 ~2,900	1,700 ~2,500

\*期間中の最小値および最大値を記載

### 感応度(概算)

為替(USD) : 1円の円高(円安)で、営業利益6億円/年、経常利益5億円/年の減益(増益)

為替(EUR) : 1円の円高(円安)で、営業利益1億円/年、経常利益1億円/年の減益(増益)

原油(Dubai) : 1\$/bbl.の上昇(下落)で、1.5億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず

メタノール : メタノール市況1\$/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

# 参考:主要製品群(旧セグメント)別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2021年度実績			2022年度(前回予想)*			2022年度(今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
<b>売上高</b>	3,358	3,697	7,056	3,900	4,100	8,000	4,000	4,100	8,100
天然ガス系化学品	1,049	1,213	2,262	1,118	1,233	2,351	1,209	1,294	2,504
芳香族化学品	976	1,051	2,028	1,133	1,150	2,283	1,161	1,123	2,284
機能化学品	1,023	1,118	2,141	1,321	1,376	2,698	1,325	1,393	2,718
特殊機能材	353	361	715	376	387	764	365	347	712
全社/調整	▲43	▲46	▲91	▲49	▲47	▲97	▲60	▲58	▲119
<b>営業利益</b>	300	253	553	300	315	615	310	315	625
天然ガス系化学品	54	43	97	39	32	72	49	41	90
芳香族化学品	104	55	160	76	57	134	81	46	128
機能化学品	78	95	174	104	147	251	116	161	277
特殊機能材	80	81	161	97	94	192	80	83	163
全社/調整	▲17	▲21	▲39	▲18	▲17	▲35	▲17	▲17	▲35
<b>経常利益</b>	387	353	741	390	425	815	410	425	835
天然ガス系化学品	85	54	140	95	104	199	87	122	209
芳香族化学品	105	55	160	76	54	130	83	43	127
機能化学品	120	155	276	127	186	313	148	184	333
特殊機能材	86	91	178	105	101	207	92	95	188
全社/調整	▲10	▲2	▲13	▲14	▲21	▲35	▲1	▲21	▲23

(注)便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

\*2022年5月12日公表

報告セグメント	主要製品群 (旧セグメント)	主要製品
基礎化学品	天然ガス系化学品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メタノール</li> <li>・メタノール/アンモニア系化学品(アンモニア・アミン類、MMA系製品、ホルマリン・ポリオール系製品、等)</li> <li>・エネルギー資源・環境事業</li> </ul>
	芳香族化学品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイパフォーマンスプロダクツ(MXDA、MXナイロン、芳香族アルデヒド等)</li> <li>・キシレン分離/誘導品(メタキシレン、高純度イソフタル酸(PIA)等)</li> <li>・発泡プラスチック事業(子会社JSP)</li> </ul>
機能化学品	機能化学品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無機化学品(エレクトロニクスケミカルズ(超純過酸化水素、ハイブリッドケミカル、過酸化水素等)</li> <li>・エンジニアリングプラスチック(ポリカーボネート/シートフィルム、ポリアセタール等)</li> <li>・光学材料(光学樹脂ポリマー、超高屈折レンズモノマー等)</li> </ul>
	特殊機能材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子材料(半導体パッケージ用BT材料等)</li> <li>・脱酸素剤(エージレス®等)</li> </ul>

## 見通しに関する注意事項

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社  
CSR・IR部 IRグループ

TEL 03-3283-5041

URL <https://www.mgc.co.jp/>



IRメール配信サービス

適時開示やIRに関する最新情報について、  
メールでお知らせいたします。ぜひご登録ください。

